

## 「第1回 阿武隈川上流緊急治水対策環境委員会」議事録（要旨）

日 時：令和3年3月1日（月）13:00～15:00

場 所：国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所 会議室

Web 会議併用

出席者：長林委員長、服部委員、瀬崎委員、中村委員、高橋委員、黒沢委員、駒木根委員、堀江委員、齋藤委員、福島委員

主な意見

### 1. 設立趣旨及び規約

- ・了承

### 2. 委員長選任

- ・長林委員を選出

### 3. 議事（主な意見）

- ・支川の堤防高は整備計画流量対応でやっているのか？流域治水という概念もあるので、段階に応じた事前の安全度の見積りのようなものも同時に検討する必要がある。
- ・高水敷を掘削するところに岩が出てこないか調査した方が良い。また、拡幅することで流路が変わらないかについてもチェックが必要。
- ・河床を下げるべきか、下げるべきではないのかということに関して、しっかりとした根拠を整理しておく必要がある。また、岩が露頭してしまう所は土砂のたまり方も変わってくるので注意が必要。
- ・流域治水ということなので、こういった整備をしたらどこの箇所の水位がどれだけの高さになるか、が流域対策を考える上で重要だと思う。拡幅した場合と掘削した場合の水位をしっかりと調べて、どちらにするか、それから工期も含めて、検討の材料にしたらい。
- ・河道掘削の中で河床掘削をしない案が出てきたことは非常に感慨深いと思う。一般論として、河床掘削を大規模に行くと河床生態系はかなりのダメージを受けるので、拡幅は非常に環境に配慮した案だと思うが、環境アセスはきちっとやって頂きたい。
- ・川の水際の所が水生昆虫にとって、多様性が一番求められている所だと思うので、同じ環境が延々と続く単調な掘削にならないようには注意してほしい。また、土捨て場の環境のことはあまり考えないと思うが、もし良好な環境であった場合は壊してしまわないよう留意して工事に臨んで頂きたい。
- ・アユやサケについては、今まで様々な災害、洪水があったが、そういうものがあつたから魚がいなくなったという現象は起きていない。阿武隈川はこの4月1日から、5種類の魚で解禁するが、天然アユの遡上等はずっと増えてきている。工事による濁水には注意してほしい。
- ・滑川地区周辺に関しては、資料の航空写真からは福島県レッドリストに載っている野鳥の重要種の生息可能性は少ないと考える。猛禽類の捕食環境は周辺に田畑が多いので、工事が終了すれば問題は少ない。生息小型鳥類は現在の環境が無くなれば、新しい環境に移動する。よって、野鳥に対する大きな問題はない。
- ・河床掘削に替わって拡幅するという事で環境のインパクトは小さくなったと思うが、流域環境という観点でも目を配ってほしい。どういう環境要素が過去に失われてきたのかというのを理解して、例えば、極力、平時の流水環境をあまり変えないような形の掘削等、考えてやって頂けるといいと思う。
- ・水面間際まで岩があつて堰のようになっている所が何か所かあるが、こういう特徴的なところをどうしていくのかということも、環境と治水の兼ね合いを考える上では大事だと思う。
- ・掘削後の裸地にアレチウリなどの外来種が繁茂することを避けるためには、基本的には、川があつてその周りに砂礫とか湿地があつて、自然堤防があるという本来の河川らしい環境を目指せばよいので、そういった形を意識して設計した掘削をすればよいと思う。